

〔様似町〕 様似中学校区の取組



様似小



様似中

1 中学校区の概要（平成 30 年度）

詳細は学校HPをご覧ください

- 学校名（児童生徒数）：様似町立様似小学校（156 人）、様似町立様似中学校（98 人）
- 導入状況（導入時期）：小中一貫型小・中学校（平成 29 年 4 月）
- 施設形態（学年段階の区切り）：施設分離型（6－3）
- 取組のポイント
 - (1) 目指す子ども像の設定・共有
 - ・地域住民及び教職員の熟議を受け、教育目標、目指す子ども像を設定、学校運営協議会で承認
 - (2) 9 年間を通じた指導計画の作成
 - ・小中一貫協議会を通じた教育課程の改善・充実
 - ・小中合同研修会の実施による各教科等の系統表及び指導計画の作成
 - (3) 特色ある取組
 - ・小中一貫型コミュニティ・スクールの推進（平成30年度より導入）
 - ・ジオパークを活用したふるさと学習の充実

2 取組の概要

- 小中合同研修会における指導計画の作成
 - ・小中合同研修会を年間19回実施し、各教科等における児童生徒の学力や学習状況を検証した。
 - ・各種調査の結果や分析に基づき、重点単元等を指導計画に位置付けた。
 - ・各教科等グループによる指導方法の工夫改善等についての発表・交流を通して、町内の教職員の資質向上を図った。
 - ・兵庫教育大学の日渡教授から、9 年間を通じた教育課程の編成・実施に関して定期的に助言を受け、改善に取り組んだ。
- 小中一貫協議会を通じた検証改善サイクルの確立
 - ・毎月、小中一貫協議会を実施し、日常の教育活動の点検・評価・改善等について協議し、年間を通じた短期の検証改善サイクルを確立した。



【小中合同研修会の様子】

【主な協議の視点】

- ・教科等横断的な視点からの教育課程の改善・充実
- ・児童生徒の実態を踏まえた指導の工夫
- ・小中の指導の一貫性を図った学習規律の定着

時期	教科	学年	単元	総時数	乗り入れ時数
5 月	算数	5	3 小数のかけ算	9 h	1～2 h
6 月	算数	6	3 分数のかけ算	9 h	
6 月		4	4 がい数	7 h	
6～7 月	算数	4	5 わり算のひき算（2）	13 h	9～10 h
6～7 月	算数	5	5 小数のわり算	12 h	2～3 h
6～7 月	算数	6	4 分数のわり算	11 h	
7 月	算数	4	6 式と計算	8 h	
8～9 月	算数	5	7 分数の大きさとたし算、ひき算	9 h	6～7 h
10～11 月	算数	2	10 かけ算	20 h	
11～12 月	算数	2	11 かけ算九九づくり	17 h	4～5 h
1～2 月	算数	4	15 小数と整数のかけ算、わり算	14 h	10～11 h
2 月		3	15 かけ算の筆算（2）	10 h	
2～3 月	算数	4	17 分数の大きさとたし算、ひき算	10 h	

【乗り入れ指導の計画を位置付けた算数科計画表】

3 成果と今後の取組

- 成果
 - ・年間を通じた小中合同研修会により、9 年間の系統性を見通した指導計画の構築や授業改善に結び付けることができた。
- 今後の取組
 - ・小中相互の乗り入れ指導を促進し、教科等横断的な視点から教育課程の改善・充実を図る。

〔小清水町〕小清水中学校区の取組



小清水小



小清水中

1 中学校区の概要（平成 30 年度）

詳細は学校HPをご覧ください

- 学校名（児童生徒数）：小清水町立小清水小学校（225人）、小清水町立小清水中学校（108人）
- 導入状況（導入時期）：小中一貫型小・中学校（平成29年4月）
- 施設形態（学年段階の区切り）：施設分離型（6－3）
- 取組のポイント
 - (1) 目指す子ども像の設定・共有
 - ・学習内容、学習指導、生徒指導について協議する場の設定及び目指す子ども像の共有
 - (2) 9年間を通じた指導計画の作成
 - ・学習指導の継続性や学習内容の系統性を踏まえた指導計画の作成
 - (3) 特色ある取組
 - ・教員の指導力向上及び授業改善に向けた「小中合同研修会」の実施

2 取組の概要

● カリキュラム・マネジメントの充実

- ・教育課程の編成、実施、評価及び改善に関する課題を明確にするため、各種調査結果等のデータから各教科等における児童生徒の現状を検証した。
- ・明らかとなった成果や課題を小・中学校の教員間で共有し、授業改善を図り、カリキュラム・マネジメントの充実に努めた。

● 施設分離型における小中合同研修会の実施

- ・施設分離型の一貫校において、小・中学校の教員が日常的に交流することができるよう、「小中合同研修会」を設定した。
- ・小中で統一した学習規律や生活規律を策定し、児童生徒の学びや育ちを支える授業づくり、指導方法についての協議を通して教員間の連携を図った。
- ・児童生徒の個性の伸長や能力の育成につながる9年間の系統性のある教育課程を編成した。

● 課題解決型の研究スタイルの推進

- ・研修マネジメントサイクルを確立するため、課題解決型の研究スタイルを導入した。
- ・指導すべき事項を整理し、学習指導の継続性や学習内容の系統性を踏まえて日常の授業改善を図った。

小中合同研修会をうけて課題解決にむけての具体的な取り組み

（小清水小・小清水中学校研修部）

現状把握・課題の明確化		要因を明らかにする
私たちの学校をみつめよう ～悩み事・困り事～	客観的なデータからみつめよう	課題を解決する手段を授業 （例）展開や改善
国語科 口説明文 ・段落構成がつかみにくい。 ・どこに力を入れたらいいかわかっていない。 ・ずっとすべてを読んでしまう。 ・状況を正確に読み取らせたい。	■CRT（H29）国語（5・6年） 「説明的な文章を読むこと」 平均正答率54.0%（全国比-6.0） ■CRT（H29）国語（5・6年） 「文学的な文章を読むこと」 平均正答率51.8%（全国比-8.2） ■通知票 「目的に応じて、内容や要旨を捉えながら文章を読んだり描写を捉えられたりすることについて考えながら読んだり出来る」 ◎71% ○29% △0%	◇1 読解力を高める ①朝学習・読み ②効果的な音 ③効果的な漢 ④2 文章構造を理解させるための話 ①話し方指導の重点化（短学話、を意図）。 ②書き方指導の重点化（自分の経験の使い方を意図）。 ③文章の構成や構造を意識（大替えをさせる一絵や写真を用 ④要約やあらすじを書かせる。 ⑤効果的な国語辞典・漢字事典 ⑥校外学習やお世話になった方
社会科 口考える力。 ・地図や資料を見ることができている。 ・「それが何を示すのかを想像すること」が苦手。	■通知票 「学習対象について考えを持ち、適切に判断することができる」 ◎77% ○20% △3%	◇1 地図の効果的な活用（資料提示の ①地図帳の積極的な活用。 ②日常的に地図に接する環境づく

【各教科等の課題解決に向けた取組一覧】



【研修マネジメントサイクル】

3 成果と今後の取組

● 成果

- ・「小中合同研修会」等の機会を通じて、重点的に指導する内容や指導方法の工夫改善の方策などを明らかにすることができた。

● 今後の取組

- ・保護者や地域住民の理解を深めるため、「小中一貫教育便り」を活用し取組を周知する。

〔斜里町〕斜里町立知床ウトロ学校の取組



知床ウトロ学校

1 知床ウトロ学校の概要（平成 30 年度）

詳細は学校HPをご覧ください

- 学校名（児童生徒数）：斜里町立知床ウトロ学校（前期課程55人、後期課程14人）
- 導入状況（導入時期）：義務教育学校（平成29年4月）
- 施設形態（学年段階の区切り）：施設一体型（4－3－2）
- 取組のポイント
 - (1) 目指す子ども像の設定・共有
 - ・4－3－2の各ブロックにおける目指す子ども像を設定し、学校運営協議会等で共有
 - (2) 9年間を通じた指導計画の作成
 - ・地域の教育資源（人材・施設）を活用した9年間を通じた指導計画の作成
 - (3) 特色ある取組
 - ・第1～9学年の単元系列一覧表に基づいた独自教科「英語」の授業実践
 - ・第3学年からの段階的な教科担任制の導入
 - ・E S D（持続可能な開発のための教育）の視点を位置付けた指導計画の作成

2 取組の概要

- 第1～9学年の単元系列一覧表に基づいた独自教科「英語」の授業実践
 - ・独自教科「英語」（第1～9学年）の指導を英語科教員が行った。
 - ・各学年の到達目標の具体として、単元系列一覧表に英検取得目標を位置付けた。
 - ・外部講師を招聘した英語の授業づくり研修会を実施し、教員の指導力向上を図った。
- 第3学年からの段階的な教科担任制の導入
 - ・教科の専門的な指導を充実させるために、第3学年から段階的な教科担任制（第6学年は完全教科担任制）を導入した。
- E S Dの視点を位置付けた指導計画（E S Dカレンダー）の作成
 - ・E S Dの視点に基づき、生活科、総合的な学習の時間を中心に教科等を横断した単元のつながりを図式化したE S Dカレンダーを作成した。

平成30年度 知床ウトロ学校独自教科「英語」単元系列一覧表				
区分	1－4ブロック			
学年	1学年	2学年	3学年	4学年
年間時数	34	35	35	35
学年区分別目標	コミュニケーションを図る素地となる資質・能力			
学年区分別到達目標	○外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 ○身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 ○外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
英検Jr.受検目標 英検取得目標	英検ジュニア（ブロンズ）		英検ジュニア（シルバー）	

【独自教科「英語」の単元系列一覧表】

第7学年 ESDカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月
国語					
数学	「正の数、負の数」～数量感覚を身に付ける				
英語		Program3 ウッド先生がやってきた	Program4 リサイクル活動		
社会		「古代日本の成立と東アジア」～古代日本と東アジアとの繋がりを理解する		「世界の諸地域」～様々な国・地域と日本の文化との違いを感じる	
理科				「植物の世界」～植物の生態についてを感じる	
総合	「外国の文化」～外国の文化について調べ、日本と外国の文化の違いを理解する。			「世界遺産知床の現状と課題」～知床の数種動物に係る課題について社会の一員として行動しようとする。	
	環境		人権	多様な文化	消費者

【E S Dカレンダー】

3 成果と今後の取組

- 成果
 - ・前期課程と後期課程の両方の指導を経験する教員が増えたことにより、教科等の系統性を踏まえた指導の充実が図られた。
 - ・第3学年から段階的な教科担任制を導入したことで、各教科の育成すべき資質・能力を明確にした指導の充実が図られ、前期課程から後期課程への円滑な接続が可能となった。
- 今後の取組
 - ・小中一貫教育の成果について、公開研究会や本校のホームページ等で広く発信する。

〔中標津町〕中標津町立計根別学園の取組



計根別学園

1 計根別学園の概要（平成 30 年度）

詳細は学校HPをご覧ください

- 学校名（児童生徒数）：中標津町立計根別学園（前期課程 86 人、後期課程 41 人）
- 導入状況（導入時期）：小中一貫型義務教育学校（平成 28 年 4 月）
- 施設形態（学年段階の区切り）：施設一体型（4－3－2）
- 取組のポイント
 - (1) 目指す子ども像の設定・共有
 - ・目指す子ども像を「夢を紡ぐ力」として、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の 4 つの観点から具体化
 - (2) 9 年間を通じた指導計画の作成
 - ・「教育課程改善チーム」が主体となり発達の段階に応じて身に付けたい力を明確化
 - ・地域資源を生かした総合的な学習の時間の指導計画を作成
 - (3) 特色ある取組
 - ・小中一貫した取組について教職員が共通理解を図るための場として「ケネスタ（計根別スタンダード）会議」を設定

2 取組の概要

- 発達の段階に応じた学びのテーマの設定
 - ・管理職、主幹教諭、各分掌部長等で組織した「教育課程改善チーム」が主体となり、「4－3－2」の区切りに応じた学びのテーマを設定し、全教職員で共通理解を図った。

第 1～第 4 学年：『夢』学びや生活の基盤となる力を身に付けていく期間
 第 5～第 7 学年：『志』学びを追求し、人間関係を結ぶ力を身に付けていく期間
 第 8～第 9 学年：『誇り』学びを伸ばし、自分の生き方を追求する力を身に付けていく期間

【学びの段階と学びのテーマ】

- 身に付けたい力や活用する地域資源を位置付けた指導計画の作成
 - ・地域学習・食育・キャリア教育を視点として学習内容や活用する地域資源を整理し、総合的な学習の時間の計画一覧表を作成した。
 - ・計画一覧表を基に具体的な学習内容や評価規準等を位置付けた総合的な学習の時間の指導計画を作成した。
- 学びの充実に向けた指導計画の改善
 - ・「教育課程改善チーム」が主体となり、学期末や年度末に指導計画を見直し、指導の充実を図った。

第 7 学年（50 時間）	第 8 学年（70 時間）
身に付けていく期間	『誇り』学びを伸ばし、力を身に付けていく期間
☆「ふるさとを知る」(8h) 酪農体験や地域探求を通して、故郷を大切にする意識の高揚と地域社会とのより良い関係作りを目指す。 →農業高校での酪農体験（トラクター試乗体験、牛のブラッシング体験、講義） ☆「農高意見発表会」参加(4h) と学ぶことで、ふるさと計根別を知り、故郷を大切にする意識を養っていく。	☆「ふるさとへの誇り」(13h) 命に寄り添いながら働く酪農家の仕事や生き方を学び、地域農業に誇りを持つ。 →JA青年部による出前授業 →ゴーダチーズ作り体験 →農業高校による出前授業 ・「命をいただくことについて」 ・地産地消について ・高校生との意見交流 →9年「卒論発表会」に参加 ☆「農高実績発表会」参加(2h)
「酪農体験」 ・中標津農業高校 「福祉体験」 ・計根別老人クラブ 「職業講話」 ・ NYESS	ふるさとへの誇り」 中標津農業高校 JA青年部 職場体験学習」 NYESS

活用する
地域資源

【総合的な学習の時間 計画一覧表（一部抜粋）】

3 成果と今後の取組

- 成果
 - ・アンケート調査の結果から、児童生徒の学習意欲の高まりや、9 年間の一貫した指導に向けた教職員の意識の高まりが見られている。
- 今後の取組
 - ・アンケートや各種調査結果等に基づき、学びのテーマや身に付けたい力を検証する。